

開催趣旨

安成 哲三

組織委員会委員長

名古屋大学地球水循環研究センター教授

アジアの人口は世界の60%を占め、GDPは世界の三分の一に達する。しかしながら、さまざまな深刻な環境問題は、この地域や国々における一方で、この地域の人々は、巨大な人口の維持を可能にしている多様な自然と気候生態系の下で、今もなお、多くの地域で環境にやさしい生活様式や伝統的農業を維持している。持続可能な自然-人間システムの構築はアジアの人々と国々だけでなく、世界全体の持続可能な自然-人間系の構築にとっても喫緊の課題である。

2010年に、ICSUは”Grand Challenge on Global Sustainability Research”と題する、グローバルな持続可能性の研究の重要性を強調する報告書を出した。この報告書では、以下のようなaction itemsを提案している：

1. 環境変動の将来予測とその結果の有用性を高める。
2. 全球のおよび地域的な環境変化に対処するための観測システムの展開、強化と統合を進める。
3. 破壊的な全球的な環境変化の予想、理解し、それを回避・対処する方法の確立する。
4. 全球的な持続性の向上を有効に進めるために、どのような組織的、経済的および行動様式の変化が必要かを究明する。
5. 全球的な持続性を達成するための技術的、政策的および社会的応答を開発する革新を（評価のため適切なしくみも含めて）促進する。

ほぼ同じころ、the ICSU Grand Challenge reportに呼応して、ICSUの別のグループにより、the Belmont Challenge reportが提出された。この報告書は、以下のより具体的な施策を強く訴えている。

- ・ 持続的環境へのニーズや社会のニーズに対処するため必要とされる連携と援助の強化を行う。問題は、過去数十年独立に扱われてきた環境問題と開発問題の統合である。
- ・ 社会のニーズの最前線での決定と行動をサポートするために、研究者、政策決定者と一般社会のあいだの対話を促進する。
- ・ 環境の観測、解析、予測とそれらの利用を社会のニーズに最も効果的に行うために自然科学研究者と社会科学研究者の協働を強く進める。
- ・ 共同データベースを通じた現在の全球的観測・モニタリングシステムを維持し利用を拡大し、利用を最適化するための同化プロセスを開発する。
- ・ 地域およびローカルスケールの詳細な情報に関する増大する社会からのニーズに答える。このためには、日から数十年の時間スケールの観測・解析データや高精度予測値に関する地域ごとの情報が必要となる。

この国際会議では、これらの報告で指摘されている問題群と、提案されている行動指針が、アジアでどう適用、応用可能かを含め、アジアにおける自然－人間系の持続可能なシステムの構築をめざす上での問題とめざすべき方策を議論する。特に、アジアでは、急激な経済発展と巨大都市化、農村システムの破壊などの「近代化」が進行しているが、しかし、この急激な「近代化」に伴う大気・水汚染、森林破壊などに加え、最近の「地球温暖化」に代表される気候変化は、同時にこの「近代化」そのものに大きな負の要因として働きつつある。アジアは、これまで伝統的な経済、社会、農業システムとその基調となっている風土と文化が維持され、ひとつの持続性社会としてのアジアを可能にしていた面がある。したがって、アジアにおける持続性社会の新たな構築は、この「古い」持続性社会の遺産を生かし、近代化の負の側面を克服して、いかに「新しい」持続性社会の構築が可能かということが、大きな課題と考えられる。

この会議では、このような問題意識を踏まえた上でこの地域で特に重要な以下の5つの課題を中心に議論する。1) アジアの環境問題－地域からの報告 2) 水資源と管理 3) 土地利用・生態系サービス・生物多様性 4) 都市化と脆弱性 5) 持続可能な地域と世界に向けた国際的な取組み